

「肉」、義認、そして裁き

海の向こうではなんでも「新しい福音」なるものがはやっているのだとか。まずクリスチャンの過去の罪を謝罪し、さばきではなく専ら愛を語り、地上における神の国の働きを強調し、永遠のことについては神におまかせしましょうと言うのだそうです。これらのことはある意味正しく、相手に躓きも与えませんから、相手の気分を害したり悪く思われることはないでしょう。しかしはたしてこれを「福音」と言ってよいものでしょうか。今秋の研究会では聖書の語る義認・さばき・そして「肉」といったトピックを気鋭の研究者と円熟期を迎えた研究者のコラボレーションで取り上げます。皆さまの来会を心から歓迎いたします。

福音主義神学会東部部会理事長 大坂太郎

講演Ⅰ



モーセ五書における「肉」の象徴的意味

平塚治樹氏（日本バプテスト教会連合 市川北バプテスト教会牧師）

1984年愛知県生まれ。東京基督教大学院卒。修士（神学）。2015年4月より市川北バプテスト教会（日本バプテスト教会連合）に就任。現在東京基督教大学非常勤講師。興味のある研究テーマはモーセ五書、旧約聖書における象徴など。

講演Ⅱ



『義認と審判』に関する一考察

—ローマ2:13の解釈を軸として—

安黒 務氏（一宮基督教研究所主宰・JEC一宮チャペル牧師）

1954年兵庫県生まれ。関西学院大学、関西聖書学院を経て東京キリスト教学園共立研修センター専門研修課程（宣教学）修了。現在一宮チャペル牧師。福音主義神学会西部部会理事。訳書にM.J.エリクソン『キリスト教神学（Ⅰ、Ⅱ）』、G.E.ラッド『終末論』など多数。

11/16 月

14:00-17:00

お茶の水クリスチャンセンター（OCC）

8 F チャペル

この研究会に関するお問い合わせは：

TEL/FAX 042(985)5444 Email : taro_oosaka@ag-j.or.jp（大坂まで）

入場
無料

（献金有）